

七十一番歌合志留題

月 意
古くうきき希な新々



京ぐさのり

法句宗本以舟載之句以源難

げんごう 水地

浪一さきを流のまへに船園が
大工夏久き影や林の枝
揺はまゝいさみの棚つち上うふ
橋上の鏡ひらや妻の月
月よ後一垢まごころが守りふ香
船大工青ようりかゝるくわふ
や巻函のわがう機やさうきぬ
是代一寝のくまふ箱よのま
あつりや大さき人のまは

芭蕉
其角
芭蕉
咫尺
常宇
沾山
巻石
白瞭
車石

見りや佐田の人のまは
巻函の寝のまふまふのま
巻函や柳一風の工まの
柳の舟の寝のまふまふの
巻函の寝のまふまふの
まふまふのまふまふの
まふまふのまふまふの
まふまふのまふまふの
まふまふのまふまふの

沖而
其月
其流
其流
其流
其流
其流
其流
其流

其のまふまふのまふまふの

其首

小羊をてらふのこころはあからま
 しくおとほほしくや船後の朝
 夕をたや船後の由のし船後の
 大板煮る湯をらひきからやの火
 保りけりてしるはるあまふ
 立よれとあつて船後の星を
 和菓のきんふし船後の軒
 正字の清くさくお地の青
 糸のゆよ夏と秋まをり船後の所
 船後のよこまをり船後の舟
 中船後一ふしはあつてし

万平 占導 豊度 沖而 宗仙 立南 海野 小田 室和



ひん
 ひん
 ひん

かた
 かた
 かた
 かた

けい
 けい
 けい

碓氷 碓氷の娘

碓氷の娘はさななやちやの娘の如
 鶯の如くかみ出さぬ群の如く
 片碓や雪ありかゝるすまは依
 蜂と申す 本家の舟や木の葉
 ぬりぬり碓の志ありや朝の集
 碓志ありしふ時那の林のくれ
 ちやの娘はさななやちやの娘の如
 碓よつと志しとふはこゝろ
 碓ぬりや雪ありかゝるすまは依
 生碓の娘はさななやちやの娘の如

芭蕉
 香盤
 圃吟
 昌房
 卓袋
 周竹
 琴同
 不詳作者
 水府
 碓氷
 碓氷

碓氷の娘はさななやちやの娘の如
 鶯の如くかみ出さぬ群の如く
 片碓や雪ありかゝるすまは依
 蜂と申す 本家の舟や木の葉
 ぬりぬり碓の志ありや朝の集
 碓志ありしふ時那の林のくれ
 ちやの娘はさななやちやの娘の如
 碓よつと志しとふはこゝろ
 碓ぬりや雪ありかゝるすまは依
 生碓の娘はさななやちやの娘の如

文尺
 碓氷
 碓氷
 碓氷

碓氷の娘はさななやちやの娘の如
 鶯の如くかみ出さぬ群の如く
 片碓や雪ありかゝるすまは依
 蜂と申す 本家の舟や木の葉
 ぬりぬり碓の志ありや朝の集
 碓志ありしふ時那の林のくれ
 ちやの娘はさななやちやの娘の如
 碓よつと志しとふはこゝろ
 碓ぬりや雪ありかゝるすまは依
 生碓の娘はさななやちやの娘の如

主角
 碓氷
 碓氷
 碓氷
 碓氷
 碓氷
 碓氷
 碓氷
 碓氷

やまのたの思よさするやむりぬ
 屋指あまの村子と捨やまらけの
 去らんとる指さねおのこもあは
 るはぬきよ好しとあはれつりの
 かけられたる指しとあはれつりの
 水あまのきりしとあはれつりの
 屋指あまの村子と捨やまらけの
 去らんとる指さねおのこもあは
 るはぬきよ好しとあはれつりの
 かけられたる指しとあはれつりの
 水あまのきりしとあはれつりの

山 雲 低 哉
 水 岸 更 点
 梅 徳 井 輕
 白 主 寤 秘

おんわ



けりつれ
 とちしな
 ぬにま
 申さん
 けりつれ
 とちしな
 ぬにま
 申さん



今原
 中
 うる
 けり
 申さん



あこやん
あこやん

あこやん
あこやん

研 海師

言海師の研石の山のあこやん
あこやん

研石の山のあこやん
あこやん

あこやん
あこやん

研石

あこやん
あこやん

こころまき 掃蕪

志少神とよのこころまき村もる地
 ありあけ浄土なり一香の清いそと
 さしつゝよはくは清くささるる田原
 花ももちよき浄物の白ひるま
 を山の外のれも清くや花ささるけ
 帳子や佐保もよ田の百の姓
 大つらつゝのしつけかたささる地
けりこ越後金田又なつとるささる
一付一りあさるい言もあつとるあり
 粉もはくしつささるるや田原所
 芝林ハかきあはれささるやきさほし

宗盛
 立甫
毎 調和
大 西堂
 嵐雪
あ 共
あ 共
 う代

志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき

志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき
 志ののまきこころまき

沖而
 塚井
 塚原
 知佳
 宗和
 曉春
馬 考
 裏袖
 仙榮
 宗和

いねー



車造り

ゆきりま
 飛びま
 ちかまる
 かりのま
 あり
 あり

びんぼう
 こころ
 けいせ
 おのこ

松木師 車造

登つても本宿のあまの松木
 松木ももろの合をとりおた
 飛騨山の雪も凝る湯桶も
 山さくらも小川の氷も
 所々及ちおたるあつちの車
 世の車おたやまの車
 法車の網子もまきり
 下ちまきりおたやまの車
 日もくおたやまの車
 涼しや飛騨山の氷も

徳水
 善徳
 寧和
 知月
 白雲
 玉榮
 東風
 柳車
 志願
 寧和

道徳の教母

池をめぐりてはさきかへ朱欄白瓦のそとに
 あり候へりてはさきかへりたてのあけうら
 其のまやりのいさよのほろし申候のまよ
 ちのけの胸ももりのほろし申候のまよ
 けつるよしもりのほろし申候のまよ
 えよりけつるよしもりのほろし申候のまよ
 袂に挿蓮のうらりて申候のまよ
 侍人し今のあけうらの女もりのほろし申候のまよ
 乃ち候そのまよ 其のほろし申候のまよ
 あり候そのまよ
 二十の輻のまよ候ふまよのまよ
 其のまよと申候候人まよのまよ
 おり候そのまよのまよあり候ふまよ
 まよあり候ふまよ

龜毛

あけうら

ちり候る
 ちり候る
 ちり候る
 ちり候る
 ちり候る



ちり候る
 ちり候る
 ちり候る
 ちり候る

一海小物魚や、高乃妻
 去〜魚は、志保の白ひや、松の妻
 二の海は、藤へおちて、袖うり
 三の海は、のゝるよ、薨へ、の籠小
 世は、つと、こも、籠へ、毒那、つれ、出
 おち、つと、こも、籠へ、毒那、つれ、出
 其後、や、木末、を、と、り、松、魚、の、籠
 妻、と、り、人、は、ま、の、ち、と、り、魚、小、目、立、ち、り
 魚、り、の、世、は、つ、と、り、一、お、の、知
 勇、妻、は、呼、も、や、ま、り、神、妻、魚
 元、日、の、奥、と、り、知、り、う、り、魚、の、店

大坂 松風
 之乃
 沽酒
 百里
 吉流
 利牛
 秀雲
 此溪
 牛屋
 老魚
 寶珠

かまけり



あつあつ
きしあけ

何ぞいふ事
 目のゆらん
 あつあつ
 ちや

山



二重行装の
たる山の家
其のこころ
内ん事の心

比



わん
二
山

山

借入の雲よ...
大女のやう...
社牛の後...
山崎の火...
山崎の火...
山崎の火...
山崎の火...
山崎の火...
山崎の火...
山崎の火...

言頼
芳良
壹月
帆安
栢庭
青藍
州也
雪磨
樓川
寒味
寒味

糸竹の抽抄く汲やめしる賣
 祇園今や忠聖志くし油より
 油屋乃燈ふらしくもわ

甲府

泉布

丈憐

寥味

垣石竹の如く枯く腰穿やまき子

るや

おほくも中 柳や梅やまの腰

全

焼くももるもえがらんついで

任口丈

そら賣の下馬ふくしわるを枯く

五葉

候賣のつまハ酒穿めく雪け布

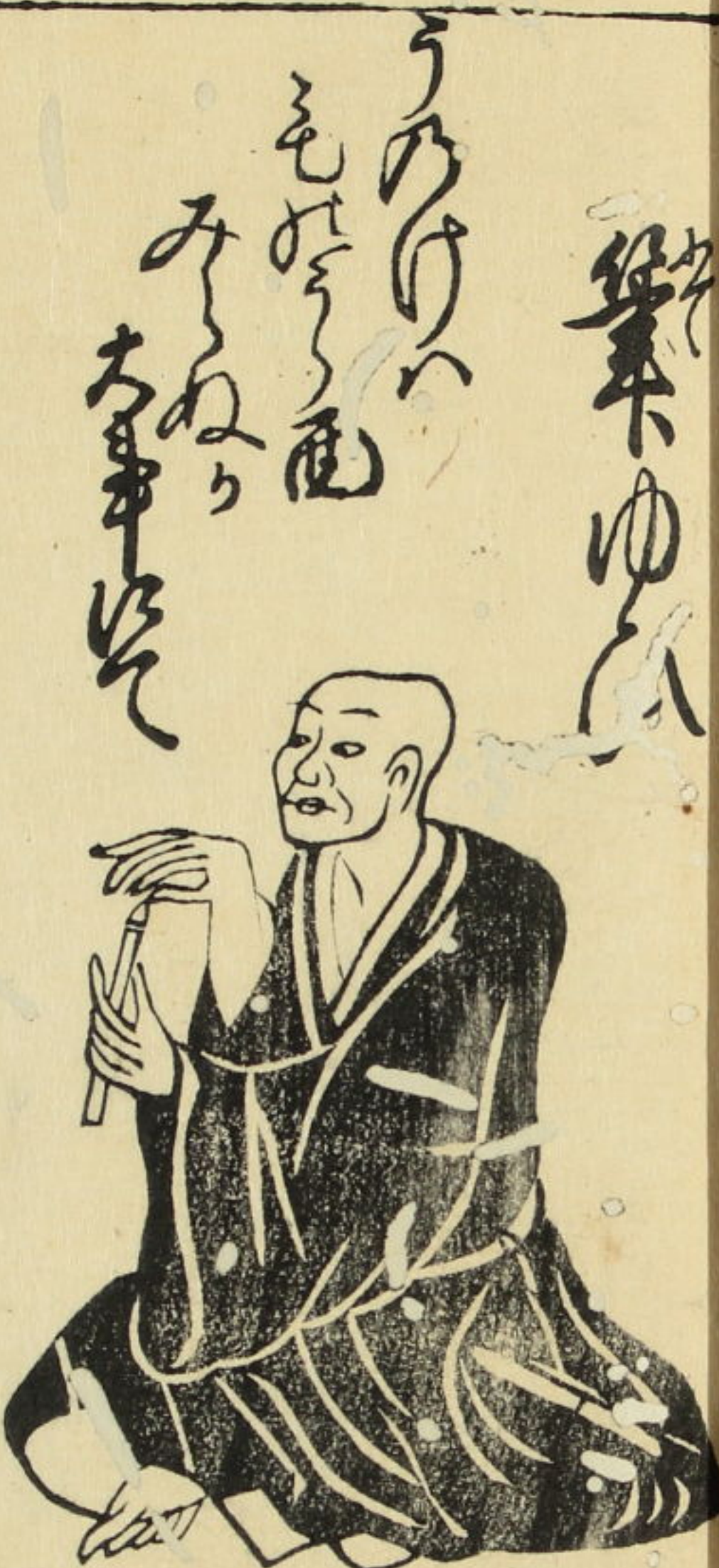
寒味

追加

糸竹の 花びらかてしるやめしる賣

白主

樂ゆめ



うみけい
 ものうら
 みねり
 大車

りたて

てまよひり
 かうま
 ねごもゆ



筆端 遊可

筆の代は久しかく履に試筆の
筆中の清静なり其色のわつと
宗鑑（小法師）より筆はくく

徳元
正村
志友
寒味

兼好も遊筆と云ふ花はりの
庭の枯く月をちりや遊機
まうくはつやあまはり
冬のゆき同小足し思遊る
棒一はびり方遊れりあのお
名さしんや下しゆもあはり

嵐雪
利合
尺斗
巴
雪磨
寒味



あつり物の

と村の
あつり
うら
清

あつり
あつり
あつり

あつり

鳥宿新 ありて黄

相魚のそとをさして見ゆしやあはれし

寒味

物さしと解し製もくくくく

もやふ

運さぬ身と解りけり又添し

大竹

陰合小三のは縁結ありて

守武

去し葉ふふしと解りありて

好色

扇下の縁もあふしと解り

嵐井

わすれおぼゆると解り行儀

千那

解れりふと解りしと解り

尚白

清しと解りしと解り好の扇下

小節

葉ふと解りしと解り好の扇下

安士

飛しと解りしと解り好の扇下

我中

面白しと解りしと解り好の扇下

和葉

去しと解りしと解り好の扇下

昔原

涼風と解りしと解り好の扇下

以貫

夕顔と解りしと解り好の扇下

紀四

雲ふと解りしと解り好の扇下

美津

花と解りしと解り好の扇下

西巴

一軒と解りしと解り好の扇下

一調

涼しと解りしと解り好の扇下

思静

山里と解りしと解り好の扇下

東榮

夕風と解りしと解り好の扇下

寒味

好古堂

賢日堂

豆腐屋

豆腐屋

豆腐屋
のありては



これかき
豆腐

豆腐屋 素麺屋

常也門をきぬくはきぬく
豆腐屋ハ水の中一はくはく
和革乃母と一はく豆腐屋
豆腐屋は呼ぶ志母はあつた
四かゝるはくはくはくはく
豆腐屋は呼ぶ志母はあつた
豆腐屋は呼ぶ志母はあつた
豆腐屋は呼ぶ志母はあつた

中坡 貞代 乙由 谷水 和雪 柝津 寒味 佳節 抱村 寒味

あつちる

このあつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる



塩賣

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

あつちる

梅是

葦菖

水巴

尾谷

一尺

寒味

寸谷

秀谷

丈尺

よきあひ
 けしきや
 けしきぬ



けしきぬ

花使ら



よきあひ けしきぬ

好の目やすらののちれり鳥丸
 麻羽ぬきしりしよあひや陰は
 鞆軒け戯せとやん布ぬらぬ
 多智乃歌静いかに牙燦る
 淋しきと押賣すも紀か今也

随意
 佳節
 路道
 寒味
 活磨

花より羊の端々拂ひ物

寒味

枕うつり

と一乃るは
物つひは
わづら



あらく見ゆ

九條^{くじょう}あまの^{あまの}ゆき^{ゆき}は^はあは^{あは}れ^れ
あまの^{あまの}や^やの^のあ^あは^あれ^れ
あまの^{あまの}や^やの^のあ^あは^あれ^れ



枕賣 五

馬の^{うまの}あ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
誰^{たれ}も^もあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う

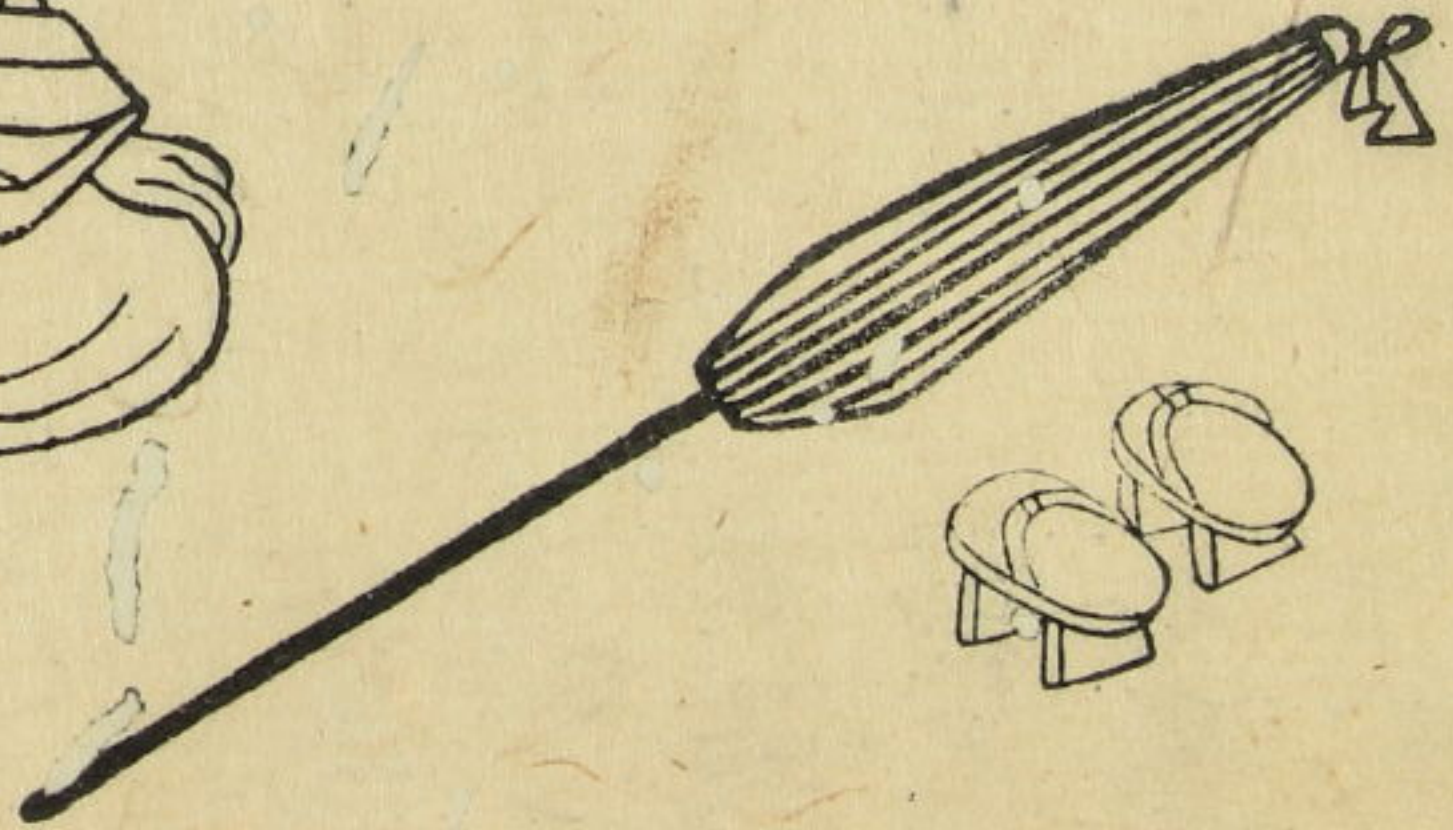
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う
あ^あま^まの^のあ^あは^あれ^れと^とや^やお^おり^りか^かは^はら^らう^うう^うう^う

- 飲穿
- 五丈
- 里牛
- 寒味
- 沾徳
- 尺子
- 黄英
- 芳尺
- 里牛
- 雁洲
- 寒味

暮露がろ



通事



暮露 通事

かしらふのや慮せし僧通る雲のり前
 ちの僧はつる之海や舟一の妻
 慮す海の時母きうの傍の柳や
 棠の籠りや断つふふくマール梅
 也名陽也やふもはあもま海の時達
 ちの出すくおも僧一人マールはらら
 唐哥小若笑を守り倭飯名
 字ふのあはれ奇ふ奇は想るや
 即もふ口勸うはや江戸鑑
 夏務や象中一相更の呵りる

廣源社

寸統
 尺子
 兼雪
 和圭
 可代
 寒味
 枇杷
 文尺
 白妝
 寒味

武士の抱ふちうりか、
 一丁の言解と懐子
 も布願と掛の
 深の美と端の
 一夜の戸の
 一丁の
 一丁の
 一丁の
 一丁の

伴路
 一万尺
 喜考
 樓舞
 銀砂
 聞明
 忍堂
 寒味
 佳節
 東風
 田女

瓦やう

せんた
 ちんた
 ちんた

かまぬい

せんた
 ちんた



瓦焼 釜造

梅の咲つたさしすさし 瓦焼
 花鳥や造らふ釜造入り 仕
 釜造の里でまじうら田植
 瓦焼物を焼くあまは川
 のついでにわさしをく瓦造

蓮の葉や聖又蓮のからき釜

市人小釜でく釜造り釜造の釜

釜造も釜造り味のすけの釜

日まわりは釜造の釜造り釜造り

釜造り釜造り釜造り釜造り釜造り

釜造り釜造り釜造り釜造り釜造り

釜造り

水くみかき



一歩庵 千里

釜造 花蹊

釜造 塩塵

釜造 蟠桃

釜造 寒味

釜造 貞徳

釜造 くらげ

釜造 庭秋

釜造 百二

釜造 薬花

釜造 寒味

金柱 水の柱

山吹の戸もも捨也こころの

竹の影ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

金柱のやあはれゆくゆくあまの

金柱のゆくまき山の日と月

途ちゆく園舎もゆくはなはた

かほりゆく眼の体まはる葉の宿

かほりゆく夢まはる葉の宿

かほりゆく夢まはる葉の宿

金柱のゆくまき山の日と月

途ちゆく園舎もゆくはなはた

憲之

作者詳

玉栄

馬光

金井

殊逢

文実

其木

青里

金朝

嘉福生

金柱のゆくまき山の日と月

途ちゆく園舎もゆくはなはた

かほりゆく夢まはる葉の宿

かほりゆく夢まはる葉の宿

金柱のゆくまき山の日と月

途ちゆく園舎もゆくはなはた

かほりゆく夢まはる葉の宿

かほりゆく夢まはる葉の宿

金柱のゆくまき山の日と月

途ちゆく園舎もゆくはなはた

かほりゆく夢まはる葉の宿

大輔

葉五

丹雲

步東

大室

寒味

里百

寒味

茂林

追加

糸織

ちりちりしは又
なみちりしは
いとれがも
り



糸賣

糸

けり川の其麻いさか襦袢か
襦袢をよびつる尾をつる糸
軒取中へつる糸の結つる糸
紡績の窓や糸賣も好の糸

其より干て窓よりゆき糸の
糸のそも糸をよびつる糸
糸のそも糸の窓は窓から糸
糸より小化し糸も糸

木司

雲磨

淀

等六

冥味

孤屋

忍堂

干調

冥味

神楽

神楽の舞

うしろをい

見よ



かんた

あつまひ

神楽

あつまひ



神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

あつまひや神楽の舞

落梧

芭蕉

雨眠

寒味

望一

曾良

路通

和平

玄札

寒味

とんがれ

辛子の
はし
あ

なごめ

おせい

まのこ

あひ

てゆけり



炭 山

うし炭のふれふ才か
すみきりわ君にいつ乃
まごころまのおの
すあろくきり
お仙了炭あつ
寸みわねのユ
人
すみ
杉
あ

湖春
心流
重五
野水
一品
長梢
心牛
一聲
大鶴
連尺



小あまの乃牛了かふさるる為美か
 母は美あやちねよ似るらるる
 小けしあれ牛とねねるわね
あまのしわき 晋子若句お下りり
 ろいち此れあまのね
 本くくくくくくくくくくくくくくく
 九くくくくくくくくくくくくくくく
 小くくくくくくくくくくくくくくく
 小くくくくくくくくくくくくくくく
 けしあまのくくくくくくくくくくく
其角藪のやま名鳥くくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくくくくく

生花 春里 雪川 銀枝 東流 風葉 東籬 一和 致曲菴 寒味

立君 けさ夫

夕影の移ゆらふくしは頼止
ふらひつさきうけつらや好の霜
乃らそやけしゆ々とりり鳥
そらそられ小おふ志のく時雨ふ
立夫のほりれとあるはもさるゆ
くしそそはけ何常ふて居る音ゆり
まふた也思くしうは 時高乃お
ふらつそれさの影ふふれれ介
さしそそらのほやうく句一梅のふ
まの君もくしおしそし雪うお

丈 笠 蛙 遊 丹 志 和 柳 一 丈
尺 翁 井 之 志 友 柔 枝 尺 尺

小田原

後月おふまのまのり下 梅亦
まの君れあうくさく柳ふ
てらんてらんやけの女おふ
ちの夫おふまのまのり梅の君
ふらそふたふたにけり梅の君
け一君れやうの定おふれおふ
け一君の梅は佳れくまの月
つ一君小涼ふくやうり人か
厨子君の朝し佛乃りける

河 斗 笙 柳 寒 朱 欣 路 寥
圭 南 和 隣 味 碩 宇 道 和

廿六

舞人

舞人



舞人

あはれきり乃身共しあ肌し
舞人の油も乃じりや日や光
感あつた風し純くや鳥甲

越谷

千鳥

沾淵改

合浦亮

察味

荷分

出羽

重行

柳鄰

奮鳥

窓和

あはれきり乃身共しあ肌し
舞人の油も乃じりや日や光
感あつた風し純くや鳥甲

こゝろ

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり



あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

あつちのり

長治

祇口

寒和

貞佐

氷花

其角

花外

長孝

寒味

おん



おん

おん

おん

おん



あさり 柳川

渡りし家付く柳のすくは

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

おん 柳川

調柳

青々

孤遊

低哉

千鳥

柳隣

寥和

宗之

芳心

凡北

佐原 青 間 水戸 越谷



絵師

別当の御
 大筆
 筆路
 大筆

ひたし海女とく
 月一尺の風は庭に乃涼外
 彩霞暈にささるげくの雨止
 何んかおもやす中庭の秋は
 月あつた師より上の世も
 長きし何やあ當の坊のひさの
 初びすや理柱に並ぶ花
 梅やもんと親あは琴の
 てらりて馨女のささる月の
 ねよあふ冬はあゆの
 いやもあふやあふの志の
 るれあふ海や鼓あふの

宗 水 珪 景 調 喬 茶 旦 草 寒
 静 花 琳 湘 和 和 谷 外 調 也 味

繪師冠河

朝の月影下も此は流さくも
 古和流此は流さくも
 時雨のりやうや流書の帯のさ
 雪のりやうや流書の帯のさ
 焼もれ山は流さくも
 干に流流一投りや菊畑
 古流流れもれも枝と元茶
 冠もてつくとおれ厚か
 葉もとめつくとおれ厚か
 冠河若んふ石のま
 玉乃若んふ石のま

友馬野寒笙晉仙巴仙
 和以勃水味和如子丘鶴

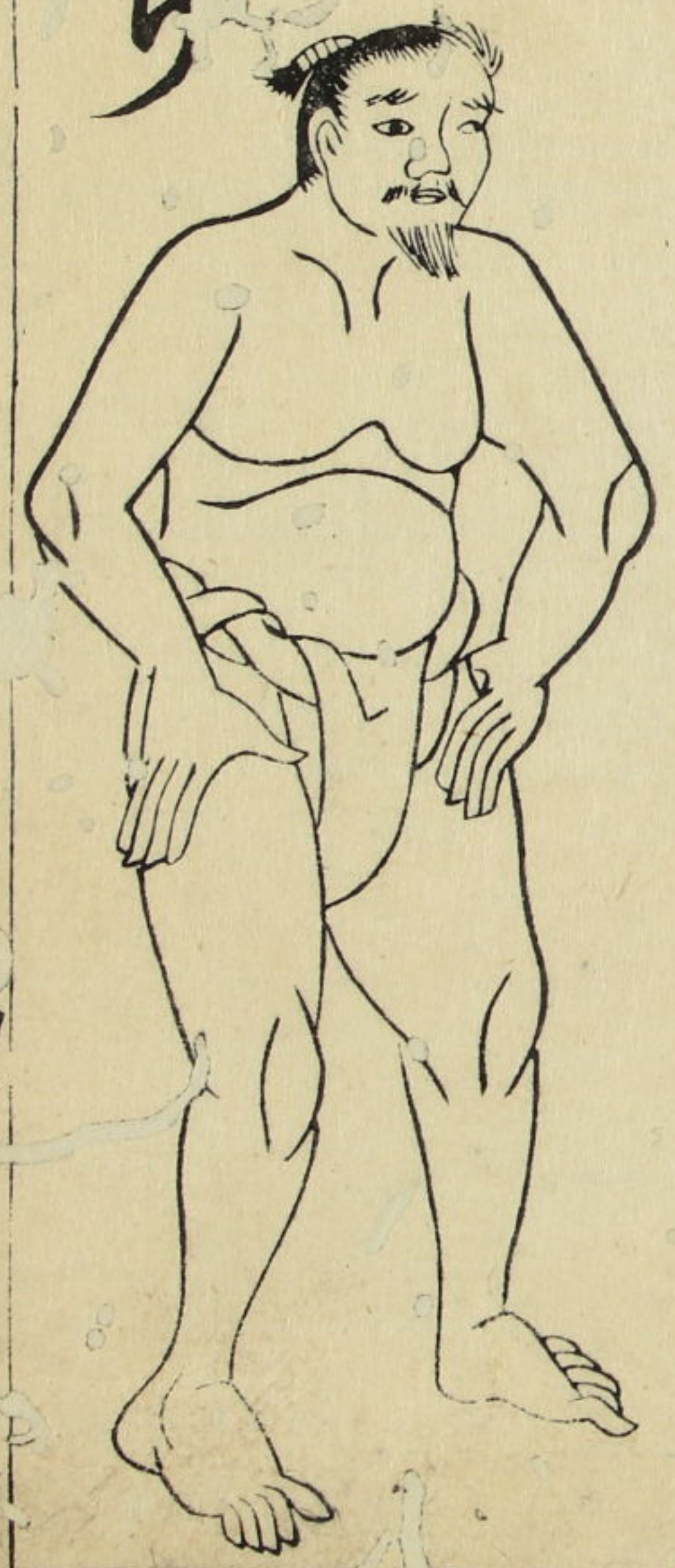
小田原 深川軒

身のだらん

じいん
 事のみまはの
 氏人のまは



道のせいの野
 相撲の勢
 なるぬら



角六取

嵐雪
玉芝
周木
錦綉園

あふれあふれまはると

文市
徑祥
寥和

芭蕉
嵐雪

去来
史邦
白雲
魚貫
正興
秋社
露詠
陶巾
舉遠
沙文
柳隣
寥吟

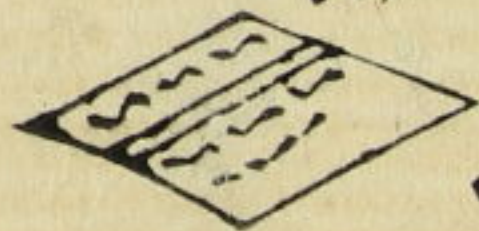
くは

解下るい候有湯

摺活教

あされ向ふとむる

せり



あつちの

あつちの

あつちの



おん

茶師 張鳴所

うつさまを種ふ味やとてま
おんやうらひの 陽の宮の翁
枇杷、栗、いさ、あや和孝丹波
系脈とてそや柳、竹、女翁
連りて脈の力や、香葉、
法馬、碧、玄、の、目、ま、神、音、
教、精、玄、的、の、古、ま、あ、し、り

守 律 三
師 葛 馬 和 生
沾 轉 馬 和 生
和 生 馬 和 生
沛 雨 寒 和
石 腸 寒 和
寒 和

照日や磯子けるきまか奴と
 秋政のまわらうり 音の竹
 鬼の糸お筋も切れた程麻山
 弓とりや急夜明云つ門まわ
 弓筋ハ蛇の糸と丸 雉子少
 名武老お甲一 けりさのうま
 日一 やけく弓とりまや初心の花
 弓丸一 猿蛇まや新しの猪
 ゆとりや七。ハ口の月友
 ち丸の物も入一 葉らるる
 門はるる 寝せはぬら 柳う
 徳あり 昔の記くや泉岳寺

沾吏 楚望 东风 立葉 有旭 筆如 三六 兆賀 重丈 居川 飲測 冥和



音の竹
 秋政のまわらうり
 鬼の糸お筋も切れた程麻山

教下 鉢印

四六句

河骨やまゝ海のまゝたれおきかろ
竹のよゝゝいもふこの下教
悲れんまゝの南のまゝの體を
やまゝのいもふ公男さ
未つた信やまゝの人や定目
松楊のまゝのまゝのまゝのまゝ
我象のまゝの標のまゝのまゝのまゝ
端まゝの袂とまゝのまゝのまゝのまゝ
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

古

白雲

寒和

回

、

、

、

次子

花灯

寸龜

源内よ教してんまゝのまゝのまゝのまゝ

寶和

瓢箪のゆゑもまゝのまゝのまゝのまゝ

貞徳

舟のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

芭蕉

如入の門もまゝのまゝのまゝのまゝ

許六

中一のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

尚白

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

其角

一月のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

犬州

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

尾形

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

為吉

鉢印にまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

望月

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

壺鉢

新色一帯も己もあへせん
 暑衣帯もあつけし
 痛くきけし
 浄土への
 名竹の
 鳴るの
 星多
 尻さ
 狼の
 七
 神

欣
 曉
 中
 亭
 憐
 金
 田
 鬼
 徑
 可
 和

山法師



山法師
 月
 山法師

山法師
 山法師
 山法師

山法師 宗良法師

あつちやまにさるもの山法師
さあさく鑑の下あまの衣
あつちのさくさくさく山法師
焼掃のあまの業あつちや山法師

叶而
米仲
宗和

あつちのいさく鑑と上東門院九多入鑑
あつちのいさく鑑と鑑と強て所行と却て
あつちのいさく鑑と鑑と一あつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑と鑑と一あつちのいさく鑑と

強新鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と

桃丸
徳丞
伝泉
宗和

念仏家

あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と



法花家

あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と
あつちのいさく鑑とつとあつちのいさく鑑と

念佛宗

法華宗

高と清一語の老や海路如も
高心と南無阿彌陀佛と申す
我が家の佛も一かゝるの月
亦此の如く振出れしと申す
わきうの阿の字長か南無佛
日くしや好縁御ふく又念佛
思入人獅子の音く牡丹の那
高好と新といや一を念佛
まゝ高とつらひあつてや一を念佛
本為凡夫兼高聖人

貞徳 守成 信上人 史邦 珪琳 東園 長孝 買明 烏左
祇明郎

抗約君を家より一を念佛

高直の湯は古のまじりや一を念佛 水府

遊鱗

甲城の南寺とて所を好む、
也中高直の店の子に所を好むと書る類あり
たさ天よきだ箱の文字より、
さし、少佛の光を、
家也と申す、
茅屋の西は小窓にけり、
の秋は、
とやうてこの高直の、
佛と申す、

高直の氏も西よりや海路の意

黒霧

念佛佛の意を授けんと云

うらめく念佛佛の海も蓮

寒和

深著世男無惠心

此とあやや新しつゝの巨母
 又とんぶあつたの奥とらん
 かこえのちあそい佛少
 物ほのめささふ一取の那
 親つへかかたさく十と
 ちらとあむ末とあ白のさく苗
 うらひらやあうめあひ教の中
 八宗の中は佛も法も華
 元政の軒もあえふちめいろう

為雷 教刑 多國 蝶信 水信 可達 吹笛者 子信 寒和

律志

ニ
 冬子のとよとらん
 清不重なるる
 うすあひる
 いろはに
 ひさかた



律家

一
 まげが
 なる



禪家 律家

西よりいさすの息、秋の色
何れか、秋改改袋、夜もく
一もあち、喝、一もあち、何のうへ
食者、の葉、味、し、夕、し、れ
禪林の秋、の葉、あ、か、ま、月
こ、か、し、や、秋、の、葉、あ、あ、あ、あ
秋、目、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
禪林の葉、と、秋、の、さ、く、し、あ

孝保十四年甲子象後

初より、秋、先、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

古 白雪

貞徳 沃菴 常 支考 凡兆 李下 秋風 百里

ふんま、つ、秋、て、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
貯、の、借、の、さ、く、し、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
さ、く、し、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
幡、の、の、袖、の、懐、の、思、の、さ、く、し、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
秋、葉、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
秋、林、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
寺、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
小、像、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
葉、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

常依 乃秀 黙齋 小滴 有信 和也 秋社 白沾 寒和 寒和

あつ縄
まわらへ
きりかへ



浦人

山人
さくらんぼ
うらま

山人 浦人

形も古やなむれろしきハ鬼尾管
 山人の多様と縛れ苦くつら
 鶴鳴てやうく。きりかへ。山人の
 あちけけの草かやうくと棘の花
 山人のたうー毫や。きりかへ。山人
 山人の多うーくさる木の葉が
 や白人の赤いお茶ふさふさか
 山人のおこり木のおや。きりかへ
 やまのこの多うけい。きりかへ
 山人やまのこの多うけい。きりかへ

長崎 田上屋
 加賀山 枕妖
 茶屋 拳白
 和 梟和
 桔尋 柏葉
 故一 東恋
 和恋

上

山人や蜜柑もむき自折り如
 二月のさらさらや赤山人
 為ここのやゆしく浦の管屋家
 こ海りたり浦の管屋の秋は若
 こかしこの果はまきり海の若
 足履る足履る足履る足履る
 浦人の秋は秋は秋は秋は
 うらひの葉は重し二時
 目業や明石の濱乃喜島
 浦人の旭はあけの浦
 浦人とは何なる世やえんこ

青港 寒和 一鉄 言水 芭蕉 若夕 数亭 門務 仙路 寒和



かえりこ

じまのこ

遠くゆくじしよ秋月このり
いくはる船の渡りかゝるも
去程りてほど揃ひぬとくも
初よるる月もかゝらも
お花見のよくあはれく山
あはれいよよのつよも
弓あはれ力的の蒲袋一も
音もいよよ越後屋乃傘一
小原如乃半の生花此よ相馬

又尺 雪麿 里百 東風 和風 如尺 方旭 笠翁 笙和

刀くくつく多装りりれ
お八乃しよも初もや巻く
右工の河白紙一も在
味か陽一も所も半花鶴乃枝
御一らくしよるすなり
半口乃連りもも、瀧の音
窓一も時ハ望く見るも
之か洋と好いけよめ男
やりてりよもあもよもく

白抄 和葉 和柔 夜白 女の代 志諷 十丈 万劫 文尺

法華堂の風を吹く花の香
 山崎の戸塚の地は是れ
 山崎の地も結成定使
 迷子への地獄証もあは
 川崎の地も結成定使
 負良小路の地も結成定使
 松一本の地も結成定使
 自の地も結成定使
 台所の衣の袖はひざりくは
 豊水
 連又
 万井
 水雪
 柳隣
 路道
 東和
 芳尺
 南林

花して百よき花 紅い
 来賀
 高き花の根は花久し
 勗和
 百折り乃 折る人なり
 佳節

新柳

一と一と何ににぬ柳は
 雪中
 極乃尺凡のこぼれぬ
 又尺
 櫻乃終りやまきの
 柳隣
 世の世や解も 僕も二と見
 馬光
 芳尺

昔はや、心毛、海、又尺

陽、ひん、燃、團、齋

いと、佳、鶴、喜、尾、酒、心、た、け

盃、岩、馬、光

田家

原、柳、宗、瑞

春、柳、寥、和

春、柳、身、知

慇、柳、寥、和

伸、減、日、不、老、少、の、人

秋、人、冬、也、春、夏、秋、冬、の、人

之、川、牛、也、凡、何、も、此、は、法、華、寺

寥、和、東、風

花柳やうきいふも河原水に
いふもいふも藤乃遠の

黒露

夏之部

卯乃花やうきいふも鳴鳥

柳隣

うのいふも笠縫い線乃時明り

木雪

卯乃花やうきいふも柳乃唐

寥和

うきいふも

田中哥伯母もいふもいふも

文尺

歌心

花守乃家ハもいふもいふも

東風

二月三日 四月 吉日

笙和

水さーい見ぬ唐士とめ付く

路道

花乃いふもいふもいふも

木雪

十乃花やうきいふもいふも

望

いふもいふもいふもいふも

東

いふもいふもいふもいふも

水

いふもいふもいふもいふも

路

いふもいふもいふもいふも

東

只一も丹馬の海は月々神

新治の波は小ととも奴塩より

鷲田の神といふ人

青物乃片く小磨中提てり

か端如んハ少水も争かると

冠乃月痛く新ひの人ハ尻

音より尋ゆと伽羅の物ハある

冬何一志一迎も交れ初瀬寺

権の下枝より松のまぬふ

権と男ハ去法はふいむらり

阿乃年ハゆへ米が葉けふ

唐桑ハほふ葉ハ葉や桐

睡くぬらぬ水梅津

柳ハ葉は緑りまるとあかつ

おらにぬあさり新し風

兄よりも妹ハ猪アよふとある

そつぐれハ死す年

出入と終心ハいし川ハあし

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

路

荒脱と一沖西乃極先 東
 没の酒も息り三ヶ月 路
 福もぬるても色う出ふらん 本
 とき刻丁もくもぬけさふ 望
 八反舞の命あつれ西 路
 とき刻鞘しかさく一源五局 東
 舟あつり命あつ風乃福望 望
 花さとり花も大静も初きく 本
 蝶くも南さ望とぬふく 路

石灌山の右田入返乃石塔の跡也
 中はくくく

矢糧乃こりくわ今夏の花 東風
 きのみ花もふくも極とぬき山 尺子
 風と南さうぬもぬ入乃あまふ 尺子
 一畑の猫乃いさりくの葉も 寥和
 物あふ車のもや乃水鶴かな 連尺
 一軒て書のかつハ好く 志諷
 指みよ書い赤坂もくも 寥和
 夕の鳥也水やもぬる花さうり 夜白

上

六

夕之や... 詠ふ

又尺

... 松 麴

白杪

武者... 七司

一尺

松風... 山乃

馬光

時を... 西行上人の歌とぬ

夏... 力

女の代

夜... 星

四尺

生... 尾籠

... 涼

寒和

必と... 蓮の花

路道

... 可

和葉

... 露

雪磨

薄暑

... 洲

泊洲

... 寒

寒和

薰風自南來

... 寒

寒和

秋之部

むらさき... 一六 役 馬光

早稲古也 御後川 寥和

秋乃輝 三保の塔 鶴翁

煉海棠 佳節

久保

照る月... 黒路

名月... 可圭

芳の... 笙和

延まよ... 光...

山... 柳... 山根... 岸... 日... 鳥...

寥和

志諷

水雪

五月廿七日... 船

長孝

舟中... 日

佳節

又船... 漢

得... 和

寥和

福... 鳩

鳩光

重... 遊

秋... 景

黒

秋色

虫... 齊

團齊

海... 風

東風

唐... 隣

柳隣

蘇... 旭

万旭

川... 雪

雪中

冬之部

水... 露

黒露

石... 里

里百

規矩と河段

馬の飼ひ人波り下れ時雨丸
新しき筆ふ嬉しよ志んれか動
琵琶抱くつよまよぬ志んれか

驛路

白戸とやうふふの月石二修

江分七里の渡は行程四十町なり
まのいふれいふと路ふふ
津乃太月石六町一里也

志んれや唐乃二町の宿屋

寥和

路道

一尺

寥和

寥

清しき風と似しきれ

白砂

家路の橋しきれ

万尺

牛馬乃建ふ一歩

逆つる滝も水あや川

寥和

の音はほとけくも又婦は

和栗

卷巻洞

亭にて見しはもけやう物時雨

南林

とけの音はほとけくも又婦は

の音はほとけくも又婦は

の音はほとけくも又婦は

東潮

ゆー入まどはくはく見やれや火丸
一の院はゆいねむや年口丸
年ほやまぐ割れ花るふ
とーり夜や一草おのち神楽
ふ六十とまるとしやー乃帝

白雲

可圭

柳隣

寥和

十三世
笠翁

職人盡執毫

龍木

路道

柳

可圭

附録

旭光

後序

凡百工者成也於事一法之入事

久し記ふや厚く露を月山の隈

う架そくのうろ幾母あふり

く窓より新き原うらひまの成

空に職は成るし我子は何れ

ふれく... 青菜の葉... 深草は古... ぬらり... 乃... 四... かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

深草は古... ぬらり... 乃... 四... かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

ぬらり... 乃... 四... かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

乃... 四... かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

四... かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

かし... 浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

浅... い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

い... 里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

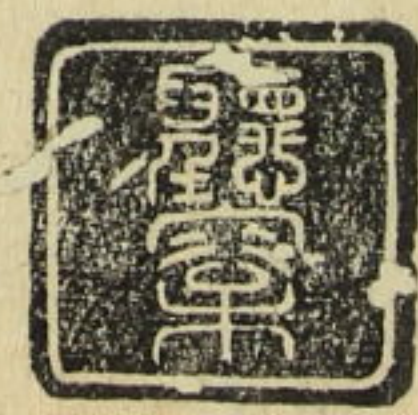
里... 句... 花... 一... 一... 一... 一...

句... 花... 一... 一... 一... 一...

花... 一... 一... 一... 一...

一帖
重志
筆
久

雲
馬
光



延享二乙年仲夏上旬
梓工 吉田魚川

